

●表と裏の関係

私たち人間社会がつくった物事には
ほとんどものに表と裏という両面があります
しかしその概念は 複雑になってきています



(内と外の関係は?)

子どもの頃 ブリキのオモチャのツメを起こして
中はどうなっているのかと分解した経験は
我々の世代の男性であれば多くの方が もっているでしょう

その中身(裏)には 表の温もりを裏切ることのない
シンプルなメカニズムが あったものです

現在のハイテクのオモチャは
裏を開けるともっと理由がわからなくなるのですが . . .

いずれにしても 表と裏は存在します

ところが 液晶テレビのように
その関係が曖昧になったものもあります

裏であったブラウン管がなくなり
液晶に変わって薄型になったテレビなどは
いわば裏かなくなっただとも言えます

住宅に関しても これまでの概念が変わってきています
インテリアデザインに対して 外観デザインがあり
どちらが表か裏かは別にしても
その関係は複雑になっています

●外観とインテリアは表裏一体

ところで住宅の表と裏 いいえ 外と内の関係ですが
その理想は表裏一体ということです

それは構造形式(木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造など)と
その表現は 誰が見てもそれらしく見える
といったシンプルな話です

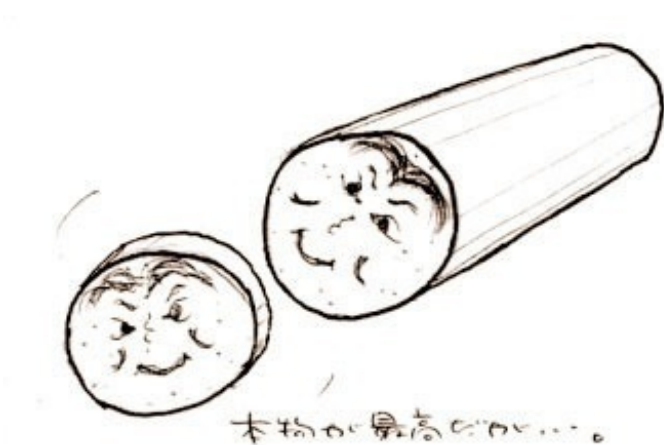
しかし 近年になって
鉄筋コンクリートかと思えるデザインで木造住宅が
つくられているものも 珍しくありません

以前の建物は
構造体が現される真壁造りやコンクリート打ち放しなど
構造の特徴が表出し
トータルなイメージがつけられてきました

しかし 前述のようにその区分がつかなくなり
また素材についても 新しい複合的な材料が増えて

木でないのに木 レンガでないのにレンガ
のように見せるものが 少なくありませんが

これは考えもので やはり本物を使いたいと思います



(本物が最高だが・・・)

精神的な問題もさることながら
長期にわたる外部の厳しい自然条件に晒される
住宅の外観素材は
とくに うわべだけの薄いものや
手軽なフェイク素材を使ったりするのではなく
ソリッドであるべきです
木材ならばムクが望ましいことは いうまでもありません

外装に使われる材料は
金太郎飴のように同じものが表に現れてくることが重要です
私たちが 美しいと思う古い町並みの民家や都市は
このことが大切な要素になっていると思います

●見る人の心に いつまでも残るデザインを

私が野球少年だった頃 グランドへの往復に通る道の途中に
素敵な家がありました
ネットフェンス越しに見える木造の家は
板張り ペンキ塗りで 眩しい芝生の中に建っていました



(南京下見にペンキ塗りの家は少年の心に残った)

いつも思わず立ち止まって眺めていた その家の佇まいは
いまでも私の心に残り 住宅を設計する際
何かの拍子にこの家が目に浮かんできます

住宅のありようというものは とても大切なものです

インテリアデザインと根本的に異なる点は
常に周辺の人たちの目に触れるということといっても

外部のデザインだけが一人歩きしないということも
また 重要です

内部の機能やデザインが
住み手にとってよく練られたものであれば
そこで発揮された個性は外観におのずと反映されます

機能性とデザインの美しさは相反するものではありません
たとえば 使いやすい椅子
調度はおのずとシンプルで美しいもの 外観も同じです

あとは 風土や緑化を考慮にいれた
専門知識を加味してできるだけ素直につくること
それにより住み手らしい家の外観ができると思います

純粹な少年の心に残るような家が建てられたら
これに勝る外観デザインはない思うのです

[創建築アトリエ](#) [今井 均]

住まいと暮らしの百科 [マイホームプラン](#)

「建築家3人は語る」 2000.07掲載

(金財マイホームプラン社 発行)